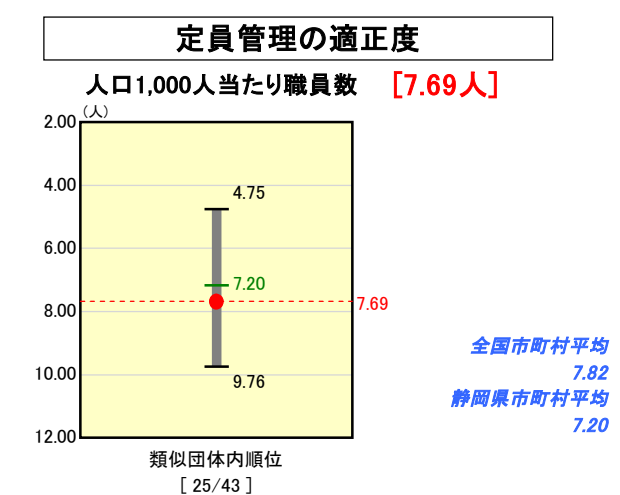
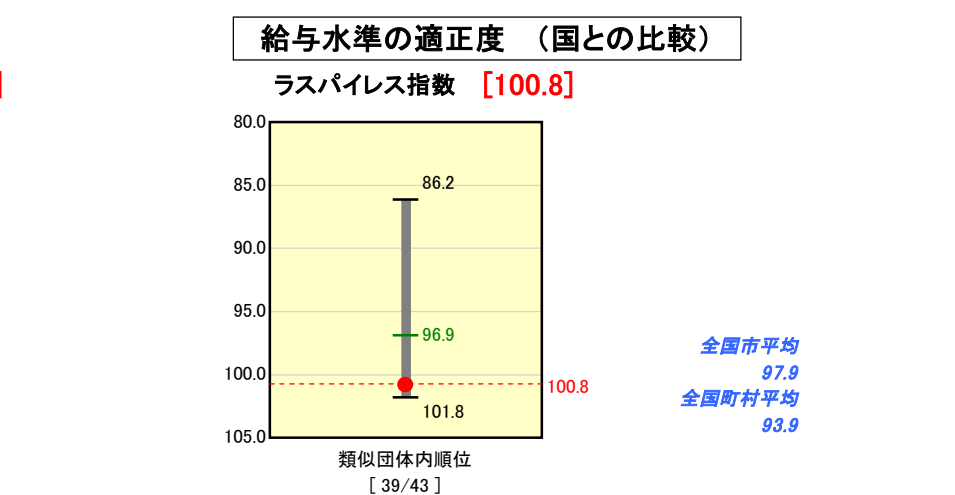
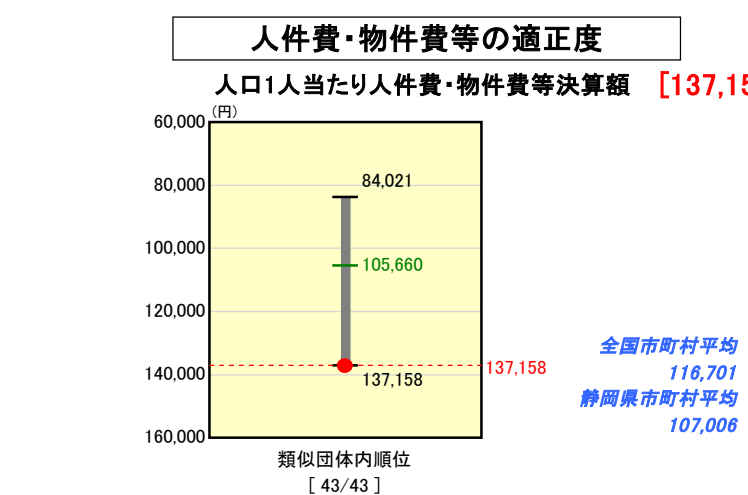
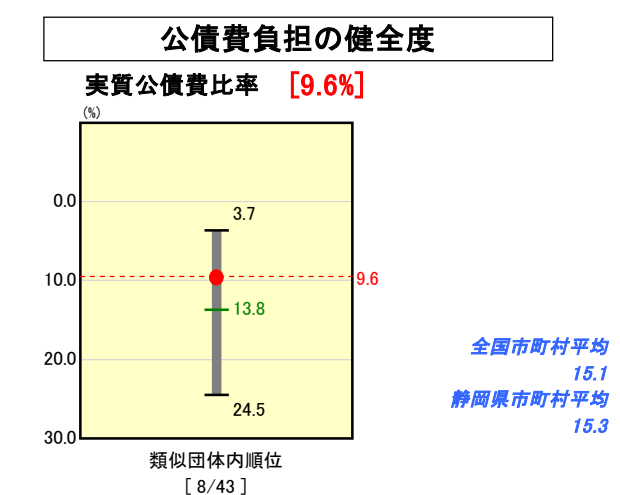
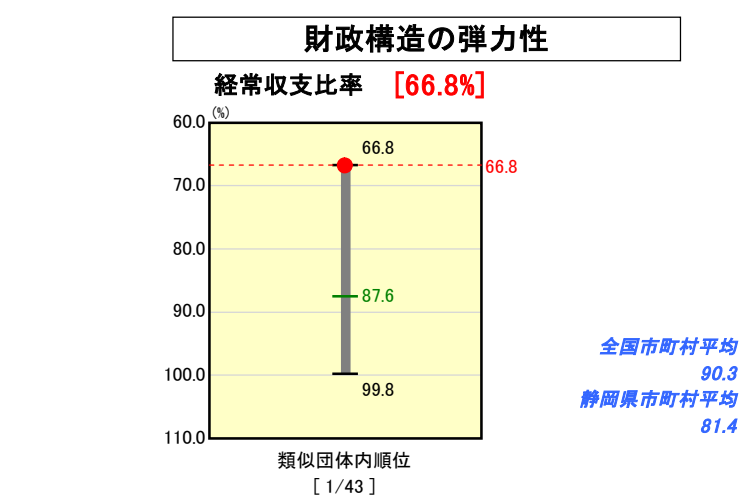
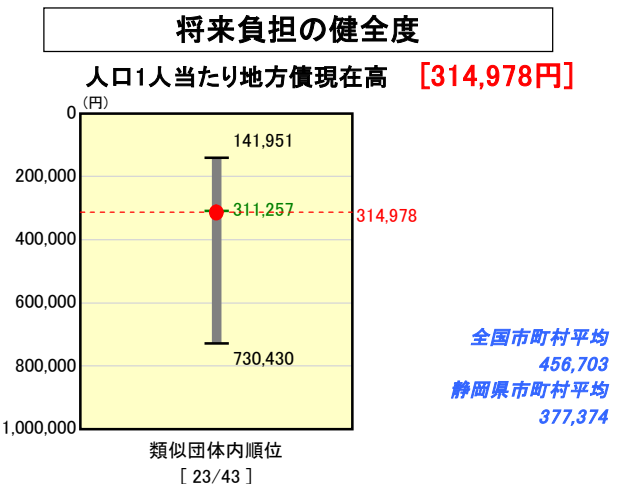
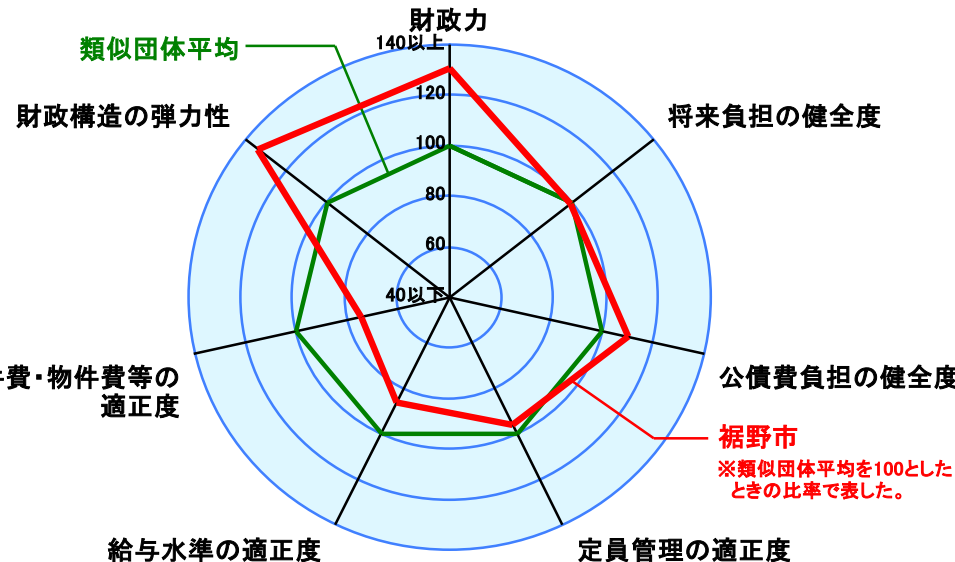
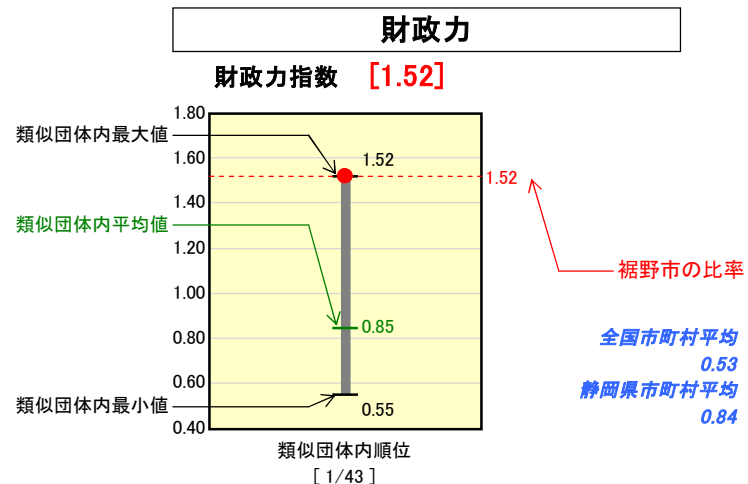


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

静岡県 裾野市

人口	53,048人	(H19.3.31現在)
面積	138.39	km ²
歳入総額	21,453,425	千円
歳出総額	20,203,245	千円
実質収支	1,053,573	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- 財政力指数：市内の大手企業の経営状況の良好等により、類似団体を上回る税収があるため財政力が1.52となっている。大手企業の本社機能の移転により平成19年度から税収増が見込まれているが、更に平成18～20年度において市北部に新工業団地を造成し、新たな企業誘致を図ることにより財源確保に努める。
- 経常収支比率：現時点においては、類似団体平均を大きく下回っており良好な状況であるが、今後福祉関係経費等の増加により比率の上昇が予想される。このため、全ての事業について事務事業評価による事業の見直しを図り、平成19年度予算からは施策別枠配分方式を実施し、より経常経費の削減に努めている。
- 実質公債費比率：現在は9%台と類似団体の中でも低い数値となっている。大規模事業等や新規事業については、今後とも緊急度・住民ニーズを的確に把握した事業の選択により起債に大きく頼ることのない財政運営に努めるため、比率については現状よりも低下していくものと見込まれる。
- 人口1人当たり地方債現在高：類似団体の中で平均値に近い金額となっている。今後とも事業の選択を行い、地方債現在高の削減に努める。
- ラスパイレス指数：指数が高めであるが、国における給与構造改革への対応とともに、人事考課制度導入に向け、年功序列的な昇給の見直しを行い、職務職責や勤務実態に応じた地方分権時代にふさわしい給与制度の確立を目指していく。また、定員適正化計画の推進とともに、各種手当の適正化、人件費の削減に努める。
- 人口1,000人当たり職員数：平成18年度当初において、指定管理者の導入を予定していた施設が、平成19年度以降にずれ込んだため、定員適正化計画の数値を上回ってしまった。当市には広域的な地域性による独自の要件もあるため、市民サービスの適正化を考慮しつつ今後も、民間委託の推進、事務事業の見直し等を積極的に行い、適正化計画の推進に努める。
- 人口1人当たり人件費・物件費等決算額：類似団体平均を大幅に上回っている主な要因は、消防・救急業務、ごみの配置、処理業務の直営、教育充実のため小学校低学年多人数学級対応の補助講師や小中学校への外国語指導補助講師など小学校給食の単独調理、待機児童ゼロを図るため公立による保育園・幼稚園の園児入所措置など積極的に行なっているため職員の人員費や物件費である賃金・施設運営管理経費などが多いことによる。平成19年度から市民文化センター、ヘルシーパーク裾野の管理運営を指定管理者に委託し、また、人事考課制度導入、職員の削減のほか行政評価を活用し事務事業の見直しを進める。